



【ほっかいどうだいがくふるかわきねんこうどう（きゅうとうほくていこくだいがくのうかだいがくりんがくかきょうしつ）】

北海道大学古河記念講堂（旧東北帝国大学農科大学林学科教室）

古河財閥の寄付により建設

北海道大学の前身である札幌農学校は、明治40（1907）年、仙台に東北帝国大学が創立されるとともに一分科大学として東北帝国大学農科大学へ改組された。日露戦争後の財源不足の中、帝大昇格をなしたのは、当時の総長佐藤昌介と同郷であり、古河財閥の顧問も務めていた内務大臣原敬が古河家へ社会貢献のための出資を進言し、それを受けた古河財閥が東北・九州帝国大学創設費として約100万円を寄付したためである。

割り当てられた予算により予科教室、畜産学教室などが文部大臣官房建築家新山平四郎の設計、新開新太郎の施工により建築されたが、現存するのはこれ1棟のみである。

意匠・構造

全体はルネサンス風にまとめられ、随所に華麗な細部意匠があふれている。正面中央に玄関ポーチと小塔があり、2階部分の半円形ガラス欄間の下には「古河家寄贈」の文字を見つけることができる。両翼にはドーマー窓のついたマンサード（腰折れ寄棟）屋根がかけられている。外壁は全面下

見板張で白ペンキに塗られているが、昭和初期には灰緑色であった。屋根は、創建当初は石綿スレート葺きで、小塔の裾部分には赤色の鱗形（うろこがた）のものが葺かれていた。平成11（1999）年末、創建時をイメージする色と形で屋根を葺きなおしている。

建物内部には「林」の文字をデザインした扉建具や半円形欄間があり、鹿の線刻装飾が施された階段親柱と踊り場明り取り窓、イオニア式円柱を上下に組み合わせた手摺りなど独特の装飾が施されている。

概要

- 木造2階建、鉄板葺一部セメントスレート葺
- 建築面積 414 m²

- 建築年代：明治 42（1909）年
- 登録年月日：平成 9（1997）年 9 月 3 日
- 所在地：札幌市北区北9条西7丁目 北海道大学構内
- お問い合わせ：国立大学法人北海道大学 ☎ 716-2111
- 観覧形態：外部観覧のみ
- 観覧料：無料
- アクセス：（北大正門まで）JR札幌駅北側西口または地下鉄南北線・東豊線「さっぽろ」7番出口より約400m
地下鉄南北線「北12条」1番出口より約550m